

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

# 文化高知

2013年3月 NO.172



[もくじ]

- 2～3 西町の「夕日」…川口清史
- 4～5 「里親」に関心をお持ちの方々へ…宇佐美文香
- 6～7 地域おこし協力隊の取り組み等について…藤倉啓輔
- 8～9 薬工ミュージアム開館一周年を迎えて…松本志帆子
- 10～11 言葉の現場から38「咳をしても一人」のなぞ…広井護
- 12～13 高知市文化振興事業団12月の事業から
- 14～15 風俗歳時記・風伯



# 西町の「夕日」



川口 清史

高知市西町七〇番地

今でこそ京都に移したが、これもともとの私の本籍地である。西町は文字通り、お城の西にある閑静な住宅街、昔は武家屋敷が並んでいたと思われる界隈である。土佐電鉄の上町三丁目停留所から北へ江ノ口川を越えて突き当たったところがその家であった。私は昭和二十年八月、敗戦直後の旧満州長春に生まれ、翌二十一年、母に背負われ、二人の姉と病身の父とともに引き揚げ、父の兄のものであったこの家に転がり込んだ。太平洋に面した高知市は米軍の空襲によって焼け野原となったのだが、西町を含め江ノ口川から北は焼け残ったのであった。二軒の離れと母屋からなる家であったが、ここに、父の弟一家、父の姉の長男一家ともども三大家族が住

んでいた。離れといってもそれぞれが一戸建ての家で、我が家は門からのアプローチを経てすぐの離れ家であった。

三大家族にはそれぞれ三人の子供がいて九人のいとこ、またいここが走り回るにぎやかな毎日であった。十年ほど前であるうか、従兄の子供の結婚式で、それこそ五十年ぶりくらいにこのとき一緒に育った従姉妹たちに会ったのだが、私の顔を見るなり、「全然変わってない」と声をあげられた。「全然はないだろう」と思いつつもそんなものかといささか複雑な思いをしたものであった。

近所の男の子たちに交じって真っ黒になって遊んだが、何しろ女家族の末っ子で、なぜか年も一番下のように、いつも味噌っかすだったように思う。よく遊んだのは、

こまわし、ビー玉、メンコといった類である。こまわしは回したこまを手に乗せ、それが回っている間鬼ごっこをするというものだったが、私は不器用で直接手の上へこまを乗せることができず、悔しい思いをしたものである。メンコは硬い名刺大の紙の上にキラキラターなどが印刷されており、それを上から叩きつけるようにぶつけあって相手を裏返したり外へ出したりするゲームであった。私たちはそれを「パン」と呼んだのだが、それはたたきつけるときの音から来たものかもしれない。電車どおりに行く途中に児童公園があって、そこへ自転車に乗った紙芝居屋がきた。買い求めた水あめを箸のような棒二本で白くなるまでこねてべちよべちよとなめながら紙芝居に見入った。もちろん水

て、私を水の中に放り込んだ。大して怖くはなかったが、それでも泳げるようにはならなかった。

通った保育園は双葉保育園と言った。母方の祖母に手をひかれ通ったのだが、私はどういうわけか足が弱く、よく転んだり、道のそばを流れる側溝に落ちたりしたらしい。道中、家々の表札を読んだり、NHKの受信標識を見てここにはラジオがあるとか言って、祖母を喜ばせていたようである。祖母は当時もう八十歳くらいであったが、とてもかくしゃくとしていた。時々手招きして、「こっそり」お姉ちゃんには内緒だよ」と言ってお小遣いをくれた。後に、姉にこの話をすると、私にもそうだったのよ、と言って大笑いした。

保育園の卒園式で「送辞」を読まされた。私は卒園式で「掃除」なのか不思議に思った。読み



筆者 (川口清史)

ながら時々読めない字があつて先生に聞きに行ったことをなぜか覚えている。きっと子供ながらまずいと思っていたのだろう。父は私が五歳の時、市民病院で亡くなった。どういうわけか一度帰宅し、家族で焼ききをして、上機嫌の父と、姉たちとで鬼ごっこをしたことを覚えている。「鬼だぞー」と言って追いかける父、キヤーカーと逃げる私たち、怖くも楽しくもあつた記憶がただ一つの父の思い出である。



2012年初夏 母校土佐高等学校の前で

頃であつたように思う。父の兄はガダルカナルの敗軍の将で、A級戦犯の刑から釈放されてモンテンルバから帰国して以来、宿敵ともなった辻政信との政争の資金に西町の家を売り払ったのだと、母は解説していた。引越しは私にはとても楽しみで、かっこいいトラックが来るかとわくわくして待っていたのだが、来たのはおじいさんと老犬が引く大八車で、本当にがっかりした。

西町の後、我が家は母が県に就職し、愛宕町の県職員住宅に入居まで、市内のあちこちを借間しながら転々とした。母にはつらい日々であつたろうが、能天気な私は

あめを買わなければ見せてもらえないのだが、お金がないときは遠くからこっそり見たものであつた。北に久万川が流れている。久万川での川遊びはその頃の私には大冒険であつた。川でザリガニ捕りやイタドリをとってきたものであつた。お城のすぐ北は、通称スベリ山である。段ボール紙のようなものを敷いてそり遊びをしたものである。そしてそのすぐ北には、土佐藩以来の刑務所があつて、少々恐ろしかった。夏は、電車通りをさらに越えて、鏡川にまで泳ぎに行った。なかなか泳げなくて、年上の子供たちは、一度溺れると泳げるようになるらしいと言っ



2012年6月 立命館大学と高知県による就職支援協定を締結

それぞれが面白く、興味深い土地であつた。今にして思えば、わずか二〜三年のことだが、随分長い時期であつたようにも思う。久しく西町を思い出すこともなかったのだけれど、少しづつ、自らの来し方を振り返る年頃になってきたのかもしれない。

陽だまりのまごころみ少年の自分いて  
土佐の冬の陽ざしは暖かくうたた寝を誘われたものであつた。

## かわぐち きよふみ

一九四五年 高知市生まれ  
土佐高等学校、京都大学経済学部を卒業。京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学(博士・経済学)。一九七六年立命館大学産業社会学部助教授に、その後同教授を経て、二〇〇七年一月学校法人立命館総長・立命館大学長に。二〇一一年一月より二期目に入り現在に至る。その他、日本私立大学連盟常務理事、大学基準協会理事、評議員、第三期日韓文化交流会議委員長、高知県観光大使等を務める。



# 「里親」に関心をお持ちの方々へ

宇佐美 文香

「あ、コゼットも里子だ」。お正月で満員の映画館の中、私は座席で何度もうなずいていました。映画のタイトルは、「レ・ミゼラブル」。ユーゴー原作の小説がミュージカルとして大ヒットロングランとなり、さらに映画化されたこの冬話題になりました。

貧困と病気で母を亡くした少女コゼットが、預けられた先の宿屋で働かされ虐待を受けながら育っていたところを、主人公のジャン・バルジャンに引き取られ、やがて優しく美しい娘に育つというくだりでした。他にもモンゴメリの「赤毛のアン」や日本昔話の「かぐや姫」「桃太郎」など、誰もが知っている小説や童話には、生みの親でない人が子どもを育て

る話はたくさんみられます。人間社会のなかでは、昔からそういった存在がなくてはならなかったからでしょう。

とはいえ、皆さんの身近にはまだ少ない「里親」とその制度について、ここでご紹介したいと思います。

## —里子になるって、養子になるって—

「里親制度」は、いろいろな事情で自分の家庭で生活することができない子どもを家庭に迎え入れてその子の最善の利益を守り、愛情を持って発達や養育を保障していくことを目的とした、児童福祉



法に基づく制度です。さらにそれは家庭という私的な場で行われる社会的かつ公的な養育であると考えられています。実子でない子どもを育てるところは共通していますが、「養子制度」と同じものではありません。

里親には、「養育里親（専門里親を含む）」、「養子縁組里親」、「親族里親」の三種類があります。養育里親は、事情により委託された子どもを一定期間養育します。事情が無くなったり、改善・解決した場合、子どもはもとの家庭に帰ります。養子縁組里親は、養子縁組により養親となることを希望する里親です。親族里親は、子どもの扶養義務者及びその配偶者である親族で、両親が死亡、行方不明、病気等で養育ができない場合に子どもを育てる里親です。そのほか、養育里親の経験者や児童福祉事業に従事した人が子供五〜六人の小規模グループで養育を行う「ファミリーホーム（小規模住居型児童養育事業）」があり、里親と施設の中間的な位置づけとして存在しています。

## —里親はボランティアなの？—

児童相談所が里親に子どもを預けることを「委託する」と言いますが、その場合に子どもに必要な一般生活費と里親手当（養育里親

## —里親になる流れ—

里親になるには、まず児童相談所に申請を行い、面接、家庭訪問調査や研修を受けることが必要です。その後、県の児童福祉審議会で審議を経て、知事の認定を受け里親登録を行います。そして子どもの委託を待つわけですが、里親自身の希望や経験、その時の家族の状況、また委託される子どもの年齢性別、里親委託が必要になった理由などを考慮して組み合わせが選ばれます。昔と違い、実親のいない子どもは稀で、養子縁組可能なケースはごくわずかなのが現状です。虐待や養育困難などの理由で、実親がいても家庭で養育できない子どもが増加しているなか、里親の数が増えれば子どもにとって様々な選択肢が広がることになります。

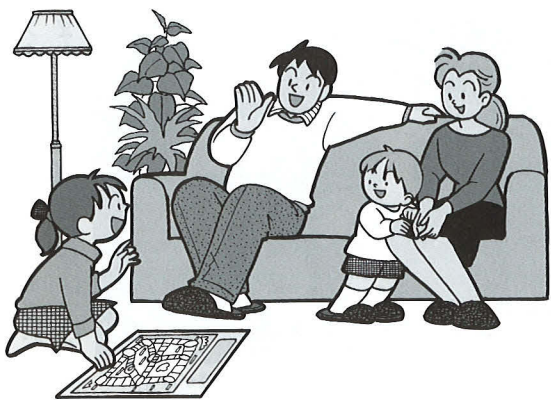
## —大事なのは子どもの幸せ—

一番大切なのは、「里親制度は子どもの幸せのためにある」ということです。子どもにとって、そ

の里親の元で育てられることが幸せであるかという視点が、まず必要なのです。

「身寄りがいい、あるいは頼れないので適当な子を養子にして、老後の面倒をみてもらいたい」、「子どもに恵まれなかったので跡継ぎがほしい」などという理由で問い合わせがあり、対応に苦慮することがあります。一般からは「子どもをもらおう」、また預ける側の実親からは「わが子を取られる」というイメージが、なかなか拭いきれないようです。そんなときは里親制度の理念を丁寧に説明してご理解を頂くようにしていますが、この機会に里親制度をたくさんの方々に知って頂けたらありがたいと思います。

以前から「里親」に関心を持たれていた方、この欄を読んで関心を持った方。「ひよつとして私もできるかな」と思われた方は、ぜひ最寄りの児童相談所にご相談ください。心よりお待ちしております。



うさみ ふみか

一九六四年 愛媛県西条市生まれ  
高知県保健師として県内市町村や保健所を経て、現在は中央児童相談所相談課チーフとして勤務。



子どもたちとバーベキュー

のみ）が支給されます。つまり、里親の仕事はボランティアではないということです。生活費は子ども一人あたりおよそ五万円、食費や被服費などを賄うお金です。教育費は就学年齢により定額で、教材費は実費支給されます。医療費については里親の負担はありません。養育里親の手当は、委託された子ども一人に対し月額七万二千円、二人目以降は一人当たり三万六千円が加算されます。



# 地域おこし協力隊の取り組み等について

藤倉 啓輔

らないのだと感じます。

【地域おこし協力隊としての私の仕事】

こちらに来る前、私は、関東の原木椎茸生産者の元で研修生として働いていました。三年の研修を終え、いよいよ独立しようと考えていた時に、福島第一原子力発電所の事故が発生し、放射能が問題となったのです。そういった状況の中で独立という選択肢を選ぶにはあまりにリスクが高く、頭を抱え込んでいた時に隣の地域の地域おこし協力隊の募集を知ったのです。この町では、原木椎茸の生産者の担い手も探しているとのことだったので、意を決して応募しました。ですので、私はそもそも、広義での地域おこしというよりは、私が



地元住民が企画してくれた結婚式（下段中央左の新郎が筆者）

【地域おこしとは何だ】  
この明確な答えが見つからない問題に対して、逃げてはいけな

いのが地域おこし協力隊なのかもしれない。地元の方が望んでいる地域おこしは多種多様で、「自然を守りたい」という方もあれば、「過疎化を何とかしたい」という方もおられます。しかし、その両者には、「人が増えれば自然が汚れる」という矛盾も発生します。また、「地域おこし協力隊とはなんぞや」という問いに対しては、地域の方がそれぞれで答えを持っており、その中には「高齢化でやれなくなった草刈りをやってくれる人」と考えている人や、「人件費を払えないイベントで使える便利な人達」と考えている人もおられます。もしかしたら、地域おこ

し協力隊をマシンガンの弾のように考えている自治体もあるかもしれません。

しかし、私たち地域おこし協力隊は、三年間という限られた期間があり、また、出来れば三年後も定住してほしいというはじめに出された宿題を抱えているのです。「どうせ三年後は帰っちゃうんでしょ」と言う方もいますが、地域おこし協力隊の多くは、ハナから定住する覚悟で来ています。少なくとも、私はそれまでの生活を全て捨てて来るわけですから、急流に飛び込むほどの覚悟が必要でした。だからこそ、三年後もここにいたいためにはやれることとやれないことを区別し、そして、地域おこしとは一体何なのかという答えを自身の中で持っていないければな

わなくなった財産がたくさんあります。放っておけば腐ってしま

うビニールハウスの鉄材や、生産をやめてしまった方の乾燥機などを先立つものがない私にとって、生活できる可能性を高めてくれるものばかり。しかも、多くの方は私を使うことを「使わないとダメになるから」と喜んで譲ってくれるのです。そういったことが出来るのも、全て師匠が地元の方との付き合いを導いてくれたおかげなのです。つまり、地域おこし協力隊は、全く知らない土地に放り出された何もできない人間なのだと思います。少なくとも、私はそうです。その何もできない人間にできることは、何なのか。大きく分けて、

私は二つあると考えています。

その一つは、「不便を不便と思うこと」だと思います。郷に入れば郷に従えという言葉もありますし、実際にこちらに住んでいると、「早く地に慣れなければ」という焦りもあり、不便であるはずのことと当たり前に変わりそうになります。しかし、たとえば光回線が通っていないことに対して、「光があればこんなこともできるんだ」という可能性と発展性を見出すことが、自治体が求めている「外からの目」なのだと思います。もちろん、便利の全てが良いとは思いませんが、その中には福祉と産業の両面で過疎化に歯止めをかけるものがたくさんあるというこ

とです。

そしてもう一つは、「財産を見つめること」です。財産といっても色々な意味がありますが、物質的なものだと、高知県にあって他にないものです。実際にそのいくつかをテスト的に関東で販売もしてみました。その結果は、思いのほか人気があり、先方からは「もっと送ってほしい」と言ってもらえるものもありました。生産量が少ないものでも、売れると分かっている自信をもって生産することが出来るようになり、地元の方の喜びにも繋がります。また、そういったものだけでなく、環境そのものが財産でもあります。先に「不便を」と述べましたが、最低限の環境を整えば、行きすぎた社会にストレスを感じた人には魅力へと変わります。事実、私の友人にも、何人もの移住希望者があり、今では空き家を貸してもらえないか、といった貸家探しも着手し始めました。この話を地元のご老人にした時、涙を浮かべながら「やっとなここにも光が当たったか」と仰っておりました。

師匠である渡辺氏は私にこう言いました。「地域おこしとは『諦めを払拭すること』なのだと思う」

自立し、発展させていくことが結果的に地域おこしになると考えて、隊員になることを希望したので。また、隣の町でもそのことを理解してくれて、出来る限り現場にいれるようにと渡辺勝喜氏という師匠を紹介してくれたのです。

中山間での栽培は初めてのことでしたし、そもそも、原木を自伐するということがなかった私に、伐採の指導といった技術面に加え、山主さんに引き合わせてくれるなど、生きるためのスキームを教えてもらっています。また、過疎化が進む地区では、使

と。その言葉を聞いた時には言葉を理解した程度でしたが、ご老人の言葉で腹に入りました。私たち地域おこし協力隊には、自治体それぞれの希望はあっても、共通の定義はありません。ですから、それぞれが考え、動かなければなりません。ただ、過疎化が進む中で、私が生きていけるといふ結果を残すことが、地元の希望となり、移住希望者への可能性になるということ。それが、私の地域おこし協力隊としての仕事なのだと感じています。



原木椎茸の生産現場

ふじくら けいすけ

一九七九年 大阪府生まれ  
神奈川県横浜市で育ち、明星大  
学人文学部英語英文学科卒業。  
二〇一二年六月より、隣の町地  
域おこし協力隊 吾北地区担当。



# 薬工ミュージアム開館一周年を迎えて

松本 志帆子

薬工ミュージアムが開館したのは一昨年の末。開館準備は約一年前から進め、開館にあたっては日本財団をはじめとするたくさんの方にご支援をいただいた。学芸員を含むスタッフのほとんどは美術館業務が初めてという中、美術関係者やアーティストなど様々な方にご助力いただきながら展覧会やワークショップなどを開催し、昨年末、無事に一周年を迎えることができました。

私が薬工ミュージアムで勤務するきっかけは、アール・ブリュット美術館が高知に開館予定のため学芸員を募集するという告知を、偶然インターネットで見つけたことだった。「アール・ブリュット※」。なんとなく知ってはいしたが、よくよく調べてみるとこれがとても

もおもしろい!! 独創的で唯一無二の作品たちにどどん魅せられていった。

幸いにも学芸員となった今、写真だけでも人を惹きつける力を持った作品たちを目の前にした時は、その存在感に圧倒され、作品の中に引き込まれる。「表現したい」「表現せずにはいられない」という思いがダイレクトに伝わってくる。喜びに満ち溢れ、思わず微笑んでしまう作品もあれば、心臓をえぐり取られるような作品に、直視できないこともある。そういった作品のおもしろさを広く皆さんに知っていただきたいと、見せ方に工夫を凝らしながら作品や作家を紹介している。二月十一日まで開催していた開館一周年特別記念展覧会「スーパー・ワールド・オン・ペーパー」

ン・ペーパー 古久保憲満と松本寛庸」では、見ごたえのある展示内容に、来館者は一点一点作品の前で足を止め、じっくりご覧になる方が多かった。

作品だけでなく制作の場も見学させていただく機会があるが、彼ら彼女らの制作は日常生活の中に自然に存在し、制作に向かう理由や時間の長短、スピードなど個人差はあれ、とてもひたむきだ。制作に向かうその行為そのものがとても美しく感じられる。

薬工ミュージアムは決して大きい美術館ではないが、「ミュージアム」とか「美術館」、「アート」というと、とても敷居が高く感じられるかもしれない。東京在学中、美術館を訪問すると敷地内の広場や公園で子どもたちが遊んで

ただいた。このような展覧会を通じて、もつと気軽に美術館に来ていただき、アートに触れてもらいたいと願っている。小さな美術館だからこそできることを行っていたい。

また、あまり周知されていないが、障がいのある方の施設外支援の場としても利用してもらっている。受付や監視、グッズ販売などのお仕事をしていただいているが、障がいのある方だと気付く方は少ないと思う。障がいの有無に関係なく、いろいろな個性を持った人が社会に存在しているということ。薬工ミュージアムは潤沢な資金もなければスタッフも少人数である。現在もたくさんの方にこそ支援、ご助力をいただいている。誰かが私たち新米学芸員を別の誰かにつなげてくれ、開催できた

展覧会やワークショップばかりだからこそ、誰もが自然につながる場所となることも薬工ミュージアムは目指している。開館から一年を迎え、ようやく「地球三十三番地の近くの蔵を改修した美術館」と伝えると分かっていただけのようになってきた。丁度一周年目のクリスマス、隣接する多目的ホール「蛸蔵」では、当館のある南金田地区の子どもたちがクリスマス会を開催した。その際、クリスマスプレゼントとして子どもたちを美術館に招待した。

初めて来た子どもがほとんどだった。まだ「薬工ミュージアム」で分かる方は多くなく、美術館隣接のレストラン「土佐バル」の方が知名度も高いくらいだ。知っては下さっている方も実際に足を運んでいただいている方は多くないかと思う。一方で、作品のおもしろさと蔵を改修した空間を気に入ってくださり、東京などの遠方から展覧会が変わる度に足繁く通ってくださる方もいる。

小さいながらも刺激的で存在感のある、誰もが気軽に立ち寄り人とながる場に、ゆっくりと時間をかけながらみなさんとともに育っていききたい。

※アール・ブリュットとは、アウトサイダー・アートとも英訳され、専門的な美術教育を受けていない方が芸術文化の流行などに左右されず心のおもむくままに表現した作品を指す。

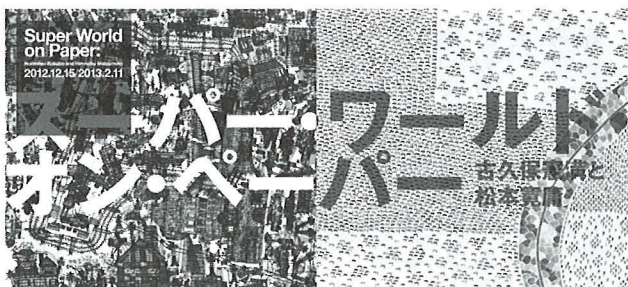
まつもと しほこ

一九七八年 南国市生まれ  
薬工ミュージアム学芸員。

展覧会名	開催期間	入場者数
パリに渡ったニッポンのアール・ブリュット	2011年12月23日～2012年2月19日	1517
トマトアートフェスタ	2012年3月3日～2012年3月25日	999
薬工倉庫 renovation project ～写真と映像でとらえた美術館への100日間～	2012年4月1日～2012年5月20日	714
スピリットアート展のあゆみ ～プロローグ 見て、感じる。～	2012年6月9日～2012年7月16日	737
GO!GO! 描きテツ!!	2012年7月21日～2012年9月2日	927
岡林美喜子個展～まなざしの先にあるもの～	2012年9月22日～2012年10月14日	220
ART ZOO～蔵のどうぶつえん～	2012年11月3日～2012年12月2日	480
スーパー・ワールド・オン・ペーパー 古久保憲満と松本寛庸	2012年12月15日～2013年2月11日	497

イベント開催回数	
講演会	2
ギャラリートーク*	3
ワークショップ	23
映画上映会	4
その他	4

\*当館学芸員によるギャラリートークをのぞく



「スーパー・ワールド・オン・ペーパー 古久保憲満と松本寛庸」



薬工ミュージアムのあるアートゾーン薬工倉庫

いて、美術館が遊びの場の一つになっていった。生活の中に美術館というものが当たり前のようになっていることがとても素敵だと感じた。トマトをテーマにハガキサイズの作品を公募した展覧会「トマトアートフェスタ」では、八百屋さんに展覧会ポスターの掲示をお願いし、公募作品の審査員にも県内のトマト生産農家の方にも加わっていただいた。誰もが簡単に参加できる展覧会には開催日数二十日間でご来場



# 「咳をしても一人」のなぜ

前回は、「国語の授業は難しい！」と題して、尾崎放哉の一句をめぐる七転八倒を紹介させていただいた。その結論は、国語の授業を成立させるには作品そのものと向き合うしかない——という事だった。いくら面白おかしい雑談でお茶をにごしても、「授業」からは逃げ切れない。そう腹をくくったとき、放哉の句が全く違う角度から見えてきた。

「言葉の裏を読む」という方法論を学んだことから突破口が開けてきた。以下は、そのころの授業である。(Tは私、Pは生徒である。)

## 咳をしても一人

T「この七文字の句には、裏の意味が読めそうな言葉が三つはふくまれているよ。言ってみてください。」  
P「咳。」  
P「も。」  
P「一人。」  
T「そうだね。この三つは深く読む必要があるね。」

### 「も」を読む。

T「よし。一番読みやすい『も』から読んでいこう。A「咳をしても一人」とB「咳をして一人」を比べてみると、『も』の意味が見えてくるよ。AとBはどう違う？」  
P「『咳をしても』と言ったら、『咳をしてないときも一人』という感じがする。」  
T「そうだね。では、『咳をしてないとき』って、具体的に言うときどき？ 何でもいいから言ってみてください。たとえば。」  
P「歩いているとき。」  
T「そう、歩いているときも一人ってことだね。まだあるよ。」  
P「座るとき。」  
T「そう、座っているときも一人だね。まだまだ。」  
P「立ち止まるとき。」  
P「ごはんを食べるとき。」  
P「寝るとき。」  
P「顔を洗うとき。」  
P「テレビを見ているとき。」  
P「あくびをするとき。」

### 「咳」を読む。

T「この人は、歩いているときも一人。座っているときも一人。テレビを見ているときも一人。あくびして一人。しゃれも一人で言っている一人で笑う。…だったら、どうして『歩いていても一人』とか、『しゃれを言っても一人』と言わずに、『咳をして』って言うのかな？ なぜ『咳』なの？ これが主発問です。この授業で一番大事な発問だね。」  
P「……。(答えられない。)」  
T「それは咳をしたときが、一番？」  
P「……。(答えられない。)」  
T「句の中の言葉で答えて下さい。この句の七文字の中に答えはあるよ。」  
P「一人。」  
T「そうですね。この人は『咳』に強いこだわりを持っている。咳をしたときが一番一人だと感じるんだ。そうでなかったら、『歩いて一人』」

### 「一人」を読む。

T「ここから『一人』の本当の意味が読めてくるよ。『一人』には、『人が単数いる。』という意味もあるけれど、ここでは？」  
P「一人ぼっち。」  
P「孤独。」  
P「淋しい。」  
T「そういう意味です。人数が一人っていうだけの意味じゃないね。すごく淋しい人なんだ。」

### 「再び」咳」を読む。

T「では、どうして『咳』をしたときに、そんなに孤独なんですか？ 歩いて、座っても、寝ても、起きて一人ぼっちのこの人が、なぜ『咳』をしたときにだけ、そんなに痛切に孤独を感じるんですか？」  
P「体が弱っているから。」  
P「病気になるから。」  
T「もっと決定的な理由があるよ。内面的な理由です。」  
P「誰かに介抱してほしい。」  
P「誰かにそばにいてほしい。」  
T「そうですね。せめて咳をしたときは、誰かにそばにいてほしい。人のぬくもりを近くに感じたい。そんな気持ちがないんです。」

な気持ちがないんです。」

すると、この『咳』ってどんな咳？

咳にも、いろいろな咳があります。咳払いの咳。のどにゴミが入って出る咳。風邪の咳。…そんな咳じゃないよね。この咳は何の咳？」

P「結核。」

P「肺臓。」

P「肺炎。」

T「よし。病名までは断定できないけれど、軽い風邪じゃないですね。命にかかわるような、死を意識するような咳の可能性が高い。『も』という言葉には、それだけの重さがある。」

するとこの『咳』には、話者の、ある気持ちがあることがわかるね。どんな気持ち？ 淋しさと同時に。…」

P「不安。」

T「心細い。」

T「そうですね。ものすごく不安で心細い。その不安を、話者はいつ感じたんですか？ 咳をする前か、咳をし終わった後でか。どう思います？」

P「後で。」

T「なぜですか？」

P「なんとなく。」

T「なんとなくでは読みとは言えないね。咳をした後、あたりがどうだったんですか？」

P「…静かだった。」

T「もう一度、まとめて言って下さい。なぜ咳をした後で不安を感じたの？」

P「咳をした後、あたりが急にシーンと静まりかえったから、不安になったんだと思います。」

T「咳をした後の静寂の中で、孤独と不安を感じたんですね。すると、そこから逆に『咳』の物理的イメージが読めるね。どんな咳だったんですか？」

P「激しい咳だった。」

T「激しい咳だったから、それが止まったとき、あたりの静けさを強く感じましたね。」  
でも、別の読みもできるよ。小さいかすかな咳だったかもしれない。その可能性も否定できないでしょう。文学作品を読むときは、全ての可能性を読むんです。

そこで、小さい咳だったとする。それなのに静寂を強く感じたんです。だとしたら、それはなぜ？」

P「……。(答えられない。)」

T「あたりに。」

P「人がない。」

P「あたりに誰もいない。」

P「もものすごく寂しいところにいる。」

T「どちらにしても、孤独と寂寥を

強調する静けさですね。」

### 「主題」を読む。

T「まとめます。歩いて、座っても、何をしても一人ぼっちの私でも、咳をした後の一瞬の静寂の中では人のぬくもりを痛切に求めます。でも、そんなときでも私はただ一人だ。——これがこの句の主題です。そんな『孤独の極北』とも言うべき心境を、たった七文字の中に、短くさりげなく表現しているところが、この句の凄いとところです。」

以上のように授業をしたあと、次のようにまとめた。

T「この句の特徴は、短かさだね。五七五という定型をくずした自由律俳句です。七文字よりも字数の少ない文学作品って想像できないでしょう。たぶん世界で一番短い詩だよ。でも、短いのはこの句の『表層』です。氷山で言えば、海面に姿を見せている一角。その背後には海面に隠れている『深層』の部分がある。その部分が深く大きいんだ。」

優れた文学作品は「表層の言葉」の背後に深く大きな意味——「深層の意味」を隠している。これを読み解くのが、文学作品を読む醍醐味だよ。」

この授業をしたあと、ある生徒から興味深い報告を受けた。

とか、『座っても一人』とか、別の言葉を使うはずだ。」

「咳」という漢字を漢和辞典(学研漢和大辞典・藤堂昭保編)で調べてみたところ「解字」の欄で次の記述を発見したという。

「咳」は、豚の骨格を描いた象形文字で、骨が出てごつごつする意を含む。『咳』は、『口偏+音符・亥』の会意形声文字で、せきが出てやせて、骨組みがあらわに外に出ること。

P「七文字しか字がないので、『咳』という漢字が異様に目立ちますよね。不気味というか、強烈な感じがして、漢和辞典で調べてみたら、この句の『咳』の意味そのものでした。」

「咳」の語源は、「咳払いの咳」でも「風邪の咳」でもなく、文字通り「死を意識するような咳」だった。生徒は熱っぽく語った。  
「深層の読み」の授業に、確かな手応えを感じた瞬間だった。

### ひろい まもる

一九五四年 高知市生まれ  
早稲田大学第一文学部日本文学  
科卒業後、私立土佐中高等学校  
に勤務。国語の教師。



第7回 Concours des Tableaux 企画展

## HEAVENLY 土方佐代香展

「HEAVENLY」土方佐代香展は、二〇一二年十二月四日（火）から九日（日）まで高知市文化プラザかるぼーと七階市民ギャラリー第五展示室で開催され、同年一月の美術作品コンクールで最優秀賞を受賞した土方佐代香氏の最新作十三点が展示されました。

実在する場所と心の中の情景が混在する風景を鮮やかな色彩で描く彼女の作品は、煽情的に、あるいはノスタルジックに、そして見る度とその印象を変えて私たちの記憶と心の中に滑り込んでくる。

一月の受賞後に一気に描きあげた作品たちは、その圧倒的かつ静かなエネルギーで観客たちを瞬く間にその世界観に引き込んだ。

日頃は県内の高校などで美術の教鞭を執る彼女の教え子たちも多く来場し、作品のテーマや技法について熱心に質問していた。今まで気軽に接していた先生の思いがけない一面に触れ、しばらくじっと絵の前でたえずむ子、創作意欲をかき立てられる子などそれぞれに刺激を受けたようである。

地元で生活圏を置き活動を続ける彼女の、今後から目が離せない。そんな期待に胸を躍らせる作品との出会いとなった。

〈入場者数・四百十八人〉。



## 市民学校作品展

二〇一二年十二月十一日（火）から十六日（日）まで、高知市文化プラザかるぼーと七階市民ギャラリー第一展示室で「市民学校作品展」を開催しました。

市民学校では春と秋に、料理や体操、英会話など約三十の教室を開講していますが、

その中でも作品を制作する教室を対象にした「市民学校作品展」を毎年開催しています。今回は、

木版画、洋裁、油絵、和紙ちぎり絵、フランス刺しゅう「戸塚刺しゅう」、銀粘土クラフトジュエリー、組紐、パッチワーク・キルト、陶芸、絵手紙、竹細工、日本画の全十二教室から受講生二百二人が約千点の作品を出品しました。

会場には繊細な手仕事がかがえる作品や自由な感性が発揮された作品など、多彩な作品がずらりと並び、訪れた方たちはその完成度に感心しながら熱心に見ていました。また、出品した受講生たちが作品を作る時の工夫や喜びなどを楽しそうに話しながら見たり、作品を前に記念撮影をしたりする様子も見られました。

会期中は、展示作品を見て興味を持たれた方から作品や教室についてのお問い合わせも多かったです。先生方、受講生の皆さんの励みになるとともに、それぞれの教室を知っていただけるよい機会となりました。

〈入場者数・五百六十九名〉。



左が洋裁、右が竹細工の作品

## ワールドミュージックナイト

VOI・12

二〇一二年十二月十八日（火）、高知市文化プラザかるぼーと小ホールにおいて、ワールドミュージックナイトVOI・12を開催しました。

この公演は市民組織「国際的な音楽交流を中心に高知を楽しくするプロジェクト」と協働で開催しているコンサートシリーズで、世界の音楽と食べ物を一度に楽しめるというコンセプトで行っています。

今回はアメリカの女性ジャズシンガー、メロニー・アーヴァインさんとピアニストのクリスチャン・ジェイコブさんが率いるピアノトリオをメインアクトに、高知からは実力派女性シンガー、樹奈さんが出演。ふたりの歌姫による、贅沢な競演をお届けしました。

会場ロビーにはドレスアップした実行委員が受付に集まり、お客さんをお迎え。

来場者の皆さんは、ワインや美味しい食事と共に、美しい歌声と情熱的な演奏を楽しみました。

〈入場者数百十九名〉。



## 市民学校年末特別教室

二〇一二年十二月二日から十二月二十三日の期間に市民学校年末特別教室として、クリスマスとお正月に向けたこの時季ならではの楽しく実用的な四つの講座を高知市文化プラザかるぼーと中央公民館で開催しました。

受講者のほとんどが絵手紙初挑戦となった「ちょっと、絵手紙MY年賀状」。緊張した教室の雰囲気講師の笑いを交えた指導で、最後には和気藹々とした合評会で締めくくることができました。

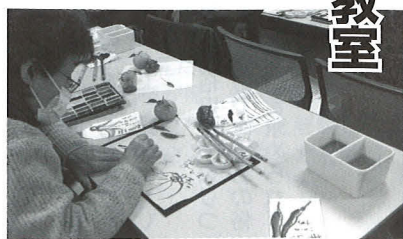
恒例となっている「お正月の着付け」では、初心者から応用編を学びたい方まで幅広く、二週にわたって着付けだけでなく所作なども教えていただきました。

「Xmasプレゼント for 私」と題した「銀粘土でつくるスワロフスキークロス」では、二人の男性を含む参加者全員が完成したばかりのクросスをさっそく身につけて帰っていきましました。

「クリスマスのお菓子」は二十三日に行い、翌日のイブにぴったりなデコレーションのリングシューケーキができました。

参加者それぞれが思い思いの作品を作り上げたり積極的に質問したりと、充実した講座となりました。

講師  
日本絵手紙協会公認講師 朝日美恵  
服部和子さまの学院 高知分校長・教授 谷沿正子  
銀粘土技能認定インストラクター 川村千広  
焼菓子工房 yako 松崎裕子  
〈受講者数・合計七十七名〉。



「ちょっと、絵手紙。MY年賀状」の制作風景



第65回 高知市展 関連行事

一日作陶体験会

アンデパンダン形式（公募・無審査）の総合美術展、「高知市展」が今年も5月～6月にかかる一とで開催されます。その関連行事として、市展陶芸専門部会による陶芸講習会を開きます。

初めての方、大歓迎！ お友達同士も大歓迎！  
この機会にぜひ、あなたも土に触れてみませんか？

対象：16歳以上の方ならどなたでも！  
日時：4月7日(日) 10:00～16:00  
会場：高知市文化プラザかるぼーと10階 彫塑・陶芸室  
参加費：5,500円（粘土・昼食代含む）  
定員：先着20名  
お申し込み・お問い合わせ  
高知市文化振興事業団 TEL088-883-5071  
3月15日(金) 8:30より電話で受け付け  
主催：高知市展陶芸専門部会・高知市文化振興事業団

風俗

日本を守れない

中国の大気汚染はかなり深刻のようだ。かつてなにもかも垂れ流していた日本の高度経済成長期を見るように、複雑な気持ちになる。あるていど民主的な日本だったからなんとかそれを乗り越えられたが、一党独裁の中国で改善が図れるものか。中国を見ていると、かつての日本の姿がどうしても重なってしまう。あのかつてのバブルの頃、米国の象徴のようなビルを買ってひんしゆくを買ったことがあった。日本の経済が強くなると、なんか自分が偉くなったような気分になったものだが、日本の経済が強くなったのであって、自分の経済力が上がったわけではない。だがいまの中国を見ていると、なんだかかつての日本にもあった民族全体として

ての未熟さが表れているように思える。いま、尖閣諸島などいざこざが起きているが、あまり役に立たないような島が重要なのはむしろ島を含めた領海なのだろう。しかし、いまバブル時代のかつての日本のように、中国人が（民間なのか国によるのか、あるいは民間の後ろで国が操っているのかは知らないが）北海道から沖縄まで、日本の豊かな水源地を買って占めているような噂をなんども耳にする。四国だってもちろん例外ではない。おそろしくかなりの速さで買占められているのではない。日本の中山間部のお年寄りが、中国人に売るのは悪いと思いつつ土地を手放してしまうのを耳にするが、日本は国として何らかの形で介入できないものだろうか。この「豊かな水の国日本」に居て、きれいで美味しい水を飲めない時代がいつ来るのではないのか。と危惧するのは老人の取り越し苦労であろうか。（霖）

第29回 写真コンテスト 「高知を撮る」 入選作品展

このコンテストでは、毎回「高知」をテーマにした写真を募集しています。

今回は「記録写真部門」と「LOVE 高知部門」にご応募いただきました296点の作品の中から、審査で選ばれた特選4点、準特選19点を含む、入選作品68点を展示します。

ぜひご来場いただき、過去から現在に至るさまざまな高知の写真をお楽しみください。

日時 3月19日(火)～24日(日) 10:00～17:00  
※19日10時より表彰式を行います。

会場 高知市文化プラザかるぼーと 7階市民ギャラリー・第4展示室  
入場無料

主催：高知市文化振興事業団  
後援：株式会社ラボネットワーク  
お問い合わせ 高知市文化振興事業団 TEL088-883-5071

今号の表紙

「蒲公英」 谷脇 由華  
たんぽぽは春がやって来たということを感じさせる花だと思えます。たんぽぽの種が風に乗って飛んでいく様子から、別れや出会いを経験して成長するこの季節にピッタリだと思いたんぽぽの絵にしました。  
(たにわき ゆか / 国際デザイン・ビューティカレッジ1年生)



高知を撮る

相撲

窪田 洋一

第28回写真コンテスト入賞作品

(昭和38年5月 旧市営相撲場)

一昨年、大相撲で大きな出来事があり相撲人気は落ちた。高知開催の大学相撲も中止になった。昭和40年頃の高校相撲では朝から多くの応援があった。

花より団子



風俗歳時記

古くから言いならわされたことわざに「花より団子」がある。風流より実益、名分よりも利得を選ぶこと、また風流を解さないこと、のたとえに用いられる。どちらが良くてどちらが悪いと、はやとちりで決めてしまう問題ではなからうが、風情が大切にされた昔でも、結構実利派が多かったとみえる。こんなことわざが残ったのもそのためだろう。それがいまは一層進み、実利の追求を金科玉条にするかのようになり、なんでも金銭で評価される世の中になり、「損をするのは愚者の選択」とばかりに、団子派が大勢の世の中である。

世の移りは、花の愛で方にも表れている。昔は「花を賞するに慎みて離披に至る勿れ」といわれたものだが、いまは咲切った花が歓迎される。「離披に至る」というのは花卉が離れるほどに開いた状態で、つまり満開のことである。物事が絶頂に達すると、あとは衰退を待ただけなので、絶頂の前

豊かさとともに心と世の中が潤い、ゆったりと他者へも心配りができる世こそ望ましいのではない。普段は、生活の俗にどっぶりつきながらも、一方では、その俗から脱することがいま求められているのではないか。(霖)

をよしとしたのだ。満たさざる一歩手前に「足るを知る」ことの大切さを教えたものである。人間の欲望には際限がない。分相心に満足する気持ちを持つことが、常に心も満ち足りて豊かであるとしたのだ。これが日本の生き方の美学だった。昔のことを言っても仕方がないので、今風に考えるとしても、ものに心が奪われる世の中が必ずしもいい時代ではなからう。もちろん、はじめから物が不足し、生活に不自由するようでは困るので、それに文句を言つつもりはないし、不必要に精神主義を煽る気もない。



平成 24 年度公共ホール音楽活性化支援事業

# Miho Kamiya Violin Concert

神谷未穂 ヴァイオリンコンサート

## 【Programs】

ラヴェル：ツィガース

サン＝サーンス：死の舞踏

マスネ：タイスの瞑想曲

ドビュッシー：「子供の領分」より  
“ゴリウオーグのケーキウォーク”

ショパン：ノクターン 第20番 嬰ハ短調 ほか

※曲目は変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

✦ 日時：2013年3月9日(土)13:00 開場 14:00 開演  
開演までの間、会場ロビーにてヴァイオリン体験コーナーを設置します。

✦ 会場：高知市文化プラザかるぽーと大ホール

✦ 料金：全席自由 前売り 500円 当日 600円 ※未就学児無料

 高知市文化プラザ かるぽーと お問い合わせ：高知市文化振興事業団 088-883-5071